

令和 7 年 4 月～6 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 7 年 4 月～6 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 401 社 回答率 50.1%）

2 調査期間 令和 7 年 6 月 16 日（月）～令和 7 年 6 月 27 日（金）

3 結果概要

今期（4 月～6 月期）の前年同期比を見ると、売上高 DI、採算 DI、資金繰り DI、雇用人員 DI が改善、業況判断 DI がやや改善となっている。

来期（7 月～9 月期）の予測は、業況判断 DI が 2 期連続で改善、雇用人員 DI がやや改善、売上高 DI、資金繰り DI がやや悪化、採算 DI が悪化となっている。

今期と前年同期比を見ると、いずれの数値も改善傾向にあるものの、来期見通しは悪化傾向と予測する数値も複数見られることから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

※DI：「デフュージョン・インデックス」の略称で、経済活動の状況を把握するために複数の指標をまとめて分析し、景気の方角性を示す統計指標のこと。

○業況判断	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 20.8 \Rightarrow \Delta 19.5$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 19.5 \Rightarrow \Delta 16.3$ ）
○売上高	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 10.8 \Rightarrow \Delta 5.4$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 5.4 \Rightarrow \Delta 6.8$ ）
○採算	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 14.0 \Rightarrow \Delta 7.7$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 7.7 \Rightarrow \Delta 11.3$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は改善（ $1.5 \Rightarrow 6.8$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $6.8 \Rightarrow 4.1$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 8.3 \Rightarrow 1.0$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $1.0 \Rightarrow 3.2$ ）

問い合わせ先

担当課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和7年4月～6月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔調査実施機関

堺商工会議所〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 7 年 6 月 16 日（月）～令和 7 年 6 月 27 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	100 社	50.0%
製造業	200 社	100 社	50.0%
卸売業	100 社	50 社	50.0%
小売業	100 社	50 社	50.0%
サービス業	200 社	101 社	50.5%
全産業	800 社	401 社	50.1%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(4月～6月期)の前年同期比を見ると、売上高DI、採算DI、資金繰りDI、雇用人員DIが改善、業況判断DIがやや改善となっている。

来期(7月～9月期)の予測については、業況判断DIが2期連続で改善、雇用人員DIがやや改善、売上高DI、資金繰りDIがやや悪化、採算DIが悪化となっている。

今期と前年同期比をみるといずれの数値も改善傾向にあるものの、来期見通しについては悪化傾向と予測する数値も複数見られることから、引き続き市内企業の動向について注視していく必要がある。

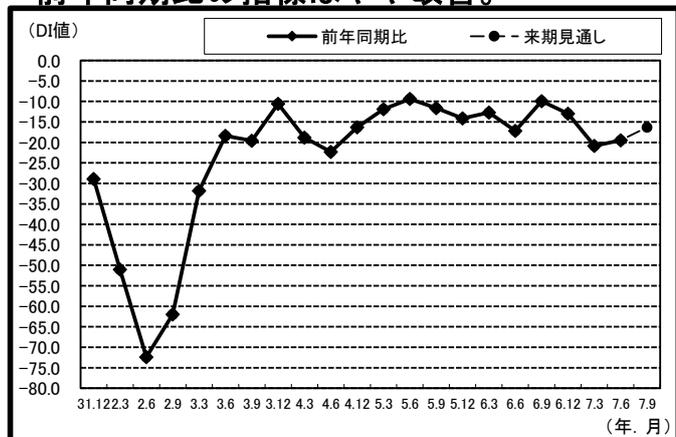
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標はやや改善
($\Delta 20.8 \Rightarrow \Delta 19.5$)

・来期見通しの指標は改善と予測
($\Delta 19.5 \Rightarrow \Delta 16.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業、卸売業が改善、製造業がやや悪化、小売業が2期連続で悪化、建設業が悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



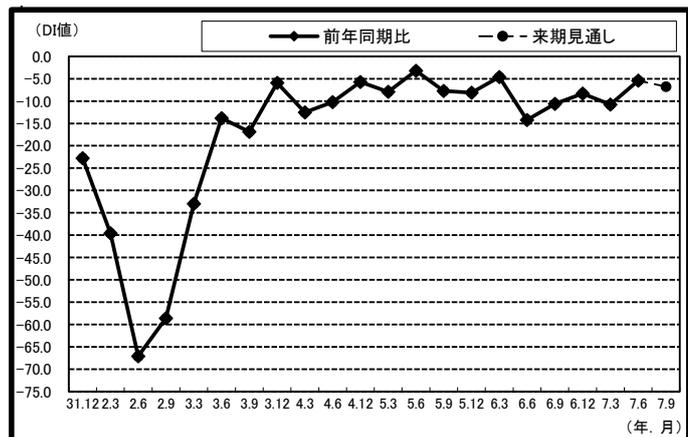
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 10.8 \Rightarrow \Delta 5.4$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($\Delta 5.4 \Rightarrow \Delta 6.8$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業が2期連続で改善、建設業、小売業が改善、サービス業がやや改善、製造業が2期連続で悪化。

・前年同期比の指標は改善。



3. 採算の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 14.0 \Rightarrow \Delta 7.7$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($\Delta 7.7 \Rightarrow \Delta 11.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、小売業は改善、卸売業はやや改善、サービス業はやや悪化。

・前年同期比の指標は改善。



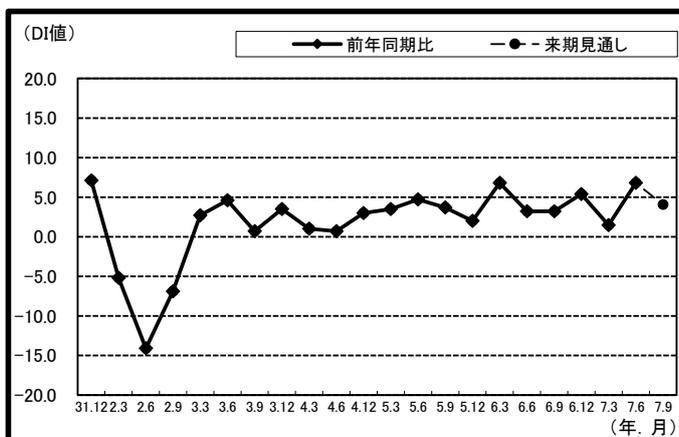
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は改善。
($1.5 \Rightarrow 6.8$)。

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($6.8 \Rightarrow 4.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、サービス業は改善、製造業はやや改善、建設業は2期連続でやや悪化、小売業はやや悪化。

・前年同期比の指標は改善。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 8.3 \Rightarrow 1.0$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($1.0 \Rightarrow 3.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業、小売業は改善、サービス業は2期連続でやや改善。

・前年同期比の指標は改善。

